

2023年6月2日
イオン株式会社
イオントップバリュ株式会社

～ トップバリュ商品を選ぶ = 気軽に3R活動に参加 ～ 2025年までに すべてのトップバリュ商品を 環境配慮3R商品に切り替えます



イオンは、2025年までに、イオンのブランド「トップバリュ」で展開する商品のすべてを、Reduce（リデュース＝削減化）、Reuse（リユース＝再使用化）、Recycle（リサイクル＝再資源化）のいずれか、あるいは複数に対応して開発を行った環境配慮3R商品に切り替えます。

また、具体的にどのような対応をしている商品であるかをお客さまにお知らせするメッセージや、トップバリュが独自に設ける「環境配慮3Rマーク」をパッケージに表示して展開いたします。

本年度以降に開発・販売する新商品のすべてを対象とするほか、既存商品についても、現在使用している包装資材の在庫消化後、もしくはパッケージリニューアルなどの折に切り替えます。

2022年4月に施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の影響などもあり、3R（リデュース、リユース、リサイクル）に対するお客さまの意識は日を追うごとに高まっています。トップバリュが独自に設けた「環境配慮3Rマーク」は、ISO 14021（環境ラベル及び宣言-自己宣言による環境主張）に規定される要求事項を満たしていることを取得の条件としています。

その要求事項は、正確で誤解を与えないものであることはもちろん、実証されていて検証が可能であること、自己宣言による環境主張の検証に必要なデータの評価および提供に責任を持っていることなど、全部で約50項目に及びます。

お客さまは、毎日のお買物で「環境配慮3Rマーク」がついたトップバリュ商品を選んでいただくことで、自然と3R活動に参加でき、社会的課題の解決を考慮した消費活動につなげることができます。

容器包装をコンパクトにしたり、化石由来のプラスチックをリサイクル素材や紙などのサステナブルな原材料に代替したり、これまではごみとなっていたものを再利用したり、「環境配慮3Rマーク」は、循環型社会の実現に向けた対応をしている商品であることの目印です。

イオンは、2030年までに、使い捨てプラスチック使用量を2018年比で半減する目標を掲げています。トップバリュでは、2030年までに商品で使用するバージンプラスチックの量を2018年度比で30%削減する目標を掲げると同時に、すべての商品で環境・社会に配慮した素材への転換を目指しており、これまでも使い捨てプラスチック削減を目指し、包材の見直しや改善を行ってきました。

このたび、製品設計からごみ処理まで、ライフサイクル全体での資源循環に向けて、さらに踏み込んだ商品開発に舵を切ることで、お客さまとともに取り組む資源循環型社会の実現を目指します。

【 トップバリュ 「環境配慮3 Rマーク」の取り組み 】

R へらす Reduce

商品に使用する化石由来プラスチックの量を、パッケージの厚みの削減や、紙原料への変更、植物由来の原料への置き換え、付属品の削減などで減らします。森や樹木をイメージした緑色のマークが目印です。

＜表示基準の例＞

- ・パッケージで使用する化石由来プラスチックが従来の重量比で10%以上削減されていること
- ・パッケージで使用する原材料をサステナブルなものに置き換える場合は、化石由来プラスチックの使用量が従来の重量比で20%以上削減されていること、およびトレースが確認できるバイオマスが10%以上使用していること

R くり返し使う Reuse

商品を使い捨てせず、中身を入れ替えたり、補充したり、手入れをしたりしながら、くり返し使うことができる商品です。大地や土をイメージした茶色のマークが目印です。

＜表示基準の例＞

- ・一般的には使い捨てとされているもので、2回以上繰り返し使えるもの
- ・「使い捨て」から「くり返し使う」行動へ変えていく提案ができるもの

R リサイクル Recycle

使用済の商品を回収し新しい商品や包装容器として有効に再利用。海や川をイメージした青色のマークが目印です。

＜表示基準の一例＞

- ・包装容器の原材料でリサイクル原材料を全体の重量に対して20%以上使用していること
- ・使用するリサイクル原材料がISO14021に準拠したものであること
- ・使用するリサイクル原材料のトレースが確認できること

＜マークの表示例＞



以上

ご参考

イオン プラスチック利用方針

1. 事業活動における資源の無駄使いや使い捨て型の利用を見直し、使い捨てプラスチックゼロを目指します。
2. 必要なプラスチックは化石由来から環境・社会へ配慮した素材へ転換します。
3. 店舗を拠点に使用済プラスチックの回収・再利用・再生する資源循環モデルを構築し、お客さまとともに持続可能な資源利用に取り組みます。

【目標】

- CO₂排出量ゼロの持続可能なプラスチック利用を目指し、
- 2030年までに、使い捨てプラスチック使用量を2018年比で半減します。
 - 2030年までに、全てのPB商品で環境・社会に配慮した素材を使用します。
 - 2030年までに、PB商品のPETボトルを100%再生又は植物由来素材へ転換します。

2020年9月策定

トップバリュの省プラスチック対応の例

- ・ 代替原料でサステナブルな容器包装
化石由来プラスチックのかわりに、植物由来のバイオマス原料を使用したパッケージやインクを使用。ペットボトルのラベルや、食品・衣類などの外袋に使われています。
- ・ パッケージのコンパクト化
巾着型だったソーセージの包装を筒状のピロー包装にしたり、パッケージのサイズを縮小することで、資材重量を削減。
- ・ ペットボトルのラベルをなくす「ラベルレス」でプラスチック削減
ケース販売するペットボトルのラベルをなくし、表示が必要な情報は箱に記載することで、プラスチックを削減。対象商品を拡大中。
- ・ プラスチックから紙製へチェンジ
掃除用品のパッケージの一部をクラフト紙に変更。重曹などに付属していたプラスチック製のスプーンも廃止し、プラスチックの削減に。



袋の素材の一部を、植物由来のバイオマス（製造過程で出る副資材に限定）に変更し、化石由来プラスチックを削減



袋を巾着包装からピロー（袋）包装にすることで、パッケージを縮小、プラスチックを削減



そばつゆの「カップ」をなくしトレーと一体化することでプラスチックを削減。そのまま食べる調理済み麺シリーズ



※ケース販売のみ。

ケース販売ペットボトルのラベルをなくし、プラスチックを削減。ラベルをはがす間も削減。



パッケージをクラフト紙に変更。プラスチックスプーンも廃止。外袋も中身も環境にやさしい原材料の洗剤